

地域のヨシを生かした体験学習と その教育的成果に関する研究 —人と自然の関わりの理解を通して 人どうしの関わりの大切さに気づく学習—

田 明 男

非会員 工修 大阪市立姫里小学校教諭（〒555-0025 大阪市西淀川区姫里二丁目8-24）

E-mail: den3200@yahoo.ne.jp

近年、児童間のコミュニケーション能力育成を目的に、ワークショップやロールプレイング等の参加型学習が、教育現場に広まりつつある。従来の学習法に比べ、その教材内容は、国語科や社会科、特別活動等、主に「読み物」や「話し合い」等の学習活動を中心としたものが多く見られる。

本研究では、自然とのふれあいが特に重要である低・中学年児童において、三年生児童を対象に実施した総合的な学習の時間での地域のヨシを活用した体験学習を通して、本学習の時間による幾らかの教育的な成果及び、そのうち特に、児童相互の話し合い活動の大切さに関する認識の変容について報告を行う。

*Key Words: a training of children's communication on capability, the experience study
utilized the reed of the area, the time of the synthetic study*

1. はじめに

子どもの「他者との関わり」については、子どもの生活空間が急激に変化するなかで、公的な世界への貢献よりも、自己の充足の世界に引きこもるという子どもの私事化現象¹⁾や、自己を内に閉ざし、自己の内部に脆くて、小さな世界を築く傾向の子どもの自己領域化²⁾、友だちを信頼ではなく、損失やリスクが無い、または、少ないがゆえの閉鎖的な時空間の共有関係³⁾などのさまざまな指摘がなされている。このような状況の元、平成10年度教育課程審議会により、大きく改善された4つの教育課程の基準のうちの1つである「豊かな人間性や社会性、国際社会に生きる日本人としての自覚を育成する」を受け、平成14年度実施の学習指導要領の国語科の教育目標には、新たに「伝え合う力を高める」が取り上げられている⁴⁾。これは国語科の時間のみならず、他の教科や道徳、特別活動、総合的な学習の時間など、さまざまな学習場面で実施

されることを意味すると考える。

そして、本学級の児童に関しては、新学期開始後から、2年生から3年生へのクラス替えによる友人関係の変化の不安を訴える者が見られた。そのため本学級児童を対象に、学級内での対人関係についての意識を理解するために、7月に「友だちとの話し合いについて」の択一及び記述式の質問紙法による調査を施した（図-1）。その結果、多くの者が「クラスでの話し合いの時間が楽しい」や、「クラスでの友だちとの話し合いの時間が大切だと思う」などの回答が得られたのに比べ、反対に「クラスでの友だちとの話し合いの時間に、相手の考えや気持ちを十分に理解できていないと思う」や、「自分の考えや思っていることを、みんなが十分に分かってくれないと思う」などの、互いに相手の気持ちについての理解が十分でないという回答が多く見られた。しかしながら、話し合い活動を進めて行くには、人どうしの信頼感を高めるための体験活動が有用であると考えた。

2. 研究校での取り組み

児童どうしの信頼感を高めるには、自然体験や生活体験、社会体験などさまざまな体験活動を教材に取り入れるべきと考え、総合的な学習の時間に地域の野草であるヨシを主にした学習活動を計画した。表-1のように「淀川のヨシの根っこ」のスケッチ（写真-1）「ヨシをプランターで栽培」（写真-2）「ヨシのせの高さの定期的な測定」（写真-3）「淀川のヨシの栽培の学級紹介での報告」（写真-7）などのヨシを栽培する学習と、高槻市の鶴殿のヨシを使っての立体

だこ作り（写真-5）のための「ヨシに付く虫のそうじ」（写真-4）や、「作品展でのヨシの立体だこの発表」（写真-6）、「淀川でのヨシの立体だこ上げ大会」（写真-8）」などの学習、「東都島小学校6年生とのビデオレターの交換」などさまざまな学習を通して、児童は一年間にわたって協力することの大切さを体験的に学んだ。また、言語による理解を高めるために、日常の国語科「話す・聞く・読む・書く」の指導の他に、ワークショップやロールプレイ方式などの新たな参加型学習の手法を進んで取り入れ、児童が積極的な話し合い活動に参加できる場作りを行った。

表-1 総合的な学習の時間での主な活動内容と、児童による3段階評価

月	主 な 活 動 の 内 容	評 価
4 月	○学習園（がくしゅえん）に、ニガウリやナスビ、キュウリのなえを植（う）えました。 ○参観学習（さんかんがくしゅう）で春（はる）の自然観察（しぜんかんさつ）をしました。 ●淀川（よどがわ）のヨシの根（ね）っこをスケッチしました。（写真-1）	2. 4 8 2. 3 3 2. 3 5
5 月	○王子動物園（おうじどうぶつえん）への春（はる）の遠足（えんそく）に行きました。 ○カップに色々（いろいろ）な種（たね）を植えてみました。 ○ドングリのスタジューを食べたり、植えたりしました。 ●ヨシをプランターに植えました。（写真-2） ○社会見学（しゃかいけんがく）で、「地域（ちいき）の人（ひと）と自然（しぜん）にやさしい町（まち）調（てい）べをしました。	2. 1 1 2. 3 5 2. 2 4 2. 3 9 2. 3 9
6 月	○ススキの根っこをスケッチをして、プランターに植えました。 ○学習園のニガウリやナスビに支柱（しちゅう）をたてました。 ○2年目（にねんめ）のドングリのクヌギを植えかえました。 ○学習園の抜（ぬ）いたざっ草（そう）を土（つち）にかぶせ、草が生えにくくしました。 ●ヨシのせの高さを、寒（む）くなるまで毎週（まいしゅう）はかりました。（写真-3）	2. 1 3 2. 0 8 2. 0 8 1. 9 8 2. 3 8
7 月	○ゲストティーチャーの西畑（にしはた）さんと地域の公園での自然観察会（しぜんかんさつかい）をしました。 ○学級（がくきゅう）の花を植えました。 ●学習園でヨシみがきをしました。カイガラムシなども見つけました。（写真-4）	2. 5 1 2. 2 1 2. 4 9
8 月	○学習園で夏（なつ）の野草（やうそう）調（てい）べをしました。 ○野草でおし花を作り、バウチでしおりも作りました。また、掲示板（けいばん）で発表（はっぴよう）しました。 ○学習園でニガウリやナスビの収穫（しゅうかく）をしました。 ●参観学習（さんかんがくしゅう）でメジャーを使（つか）って夏のヨシの高さをはかる算数の学習をしました。	2. 1 7 1. 9 6 2. 1 7 2. 0 8
9 月	○国語の学習でコミュニケーションを高める学習をしました。 ○国語の学習で「アリのすみかを探（さが）そう」を学習園で調べてみました。 ○野草を使って、草ずもうやかざりなどを作りました。	2. 0 4 2. 4 0 2. 1 6
10 月	○大倉（おくら）先生のバッタの出前授業（でまへじゅぎょう）がありました。 ●ヨシの花穂（はなほ）を調べました。 ○淀川で大倉先生と、バッタのジャンプ大会をしました。 ●ヨシの立体だこ作りをはじめました。（写真-5）	2. 4 1 2. 0 0 2. 6 6 2. 4 4
11 月	○オリエンタリングで「秋の色さがし」をしました。 ●作品展（さくびんてん）でヨシの立体だこやススキを使った作品、自然学習の絵を発表しました。（写真-6） ●日曜参観学習（にようさんかんがくしゅう）で総合的な学習の時間について発表しました。 ●日曜参観学習（にようさんかんがくしゅう）で親子（おやこ）でヨシのコースターを作りました。 ●ヨシでリコーダー作りにちようせんしました。	2. 4 3 2. 0 6 2. 0 6 2. 0 2 2. 0 6
12 月	●運動場で立体だこを上げる練習（れんしゅう）をしました。 ○学習園に、カブラやダイコンの種（たね）を植えました。 ●学級紹介（がくきゅうかい）で「自然（しぜん）は大事（だいじ）だよ」の発表をしました。（写真-7）	2. 2 6 2. 1 3 2. 0 4
1 月	●寒風（かんふう）の淀川で、大倉先生とヨシの立体だこを上げました。（写真-8） ●ヨシでペン作りをしました。	2. 3 6 1. 8 5
2 月	○板井（いたい）先生に集団疎開（しゅうだんそかい）のことと、平和（へい）の大切（たいせつ）さのお話を聞きました。 ●社会科で「わかしのからしを調（てい）べよう」で、七輪（しちりん）の炭（すす）にヨシで火をおこしました。 ○学習園で作ったダイコンやカブラを、そのまままたは、家で調理（ちようり）をして食（た）べました。	2. 3 9 2. 5 5 2. 2 8
3 月	●東都島（とうとしま）の6年生のみなさんと、淀川（よどがわ）についてビデオレターを交換（こうかん）をしました。 ○橋本先生から、野鳥（やちょう）の観察（かんさつ）のしかたについて、お話を聞きました。 ●橋本先生をはじめ、5人の野鳥の先生と淀川で野鳥とヨシについて学習しました。	2. 0 2 2. 2 0 2. 3 6

（注意）●部分は、ヨシを活用した活動内容に関するもの

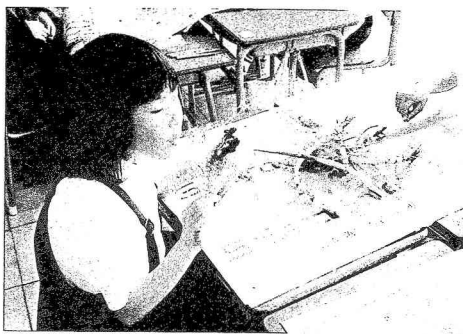


写真-1 ヨシの根っこのスケッチ

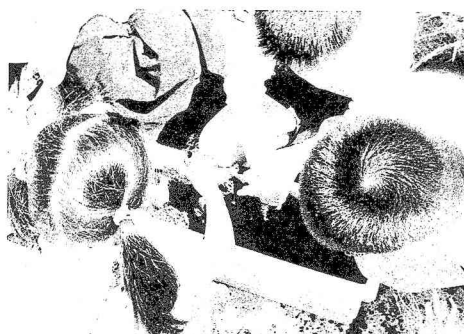


写真-2 プランターでのヨシの栽培



写真-3 ヨシのせの高さの測定



写真-4 学習園でのヨシみがき



写真-5 ヨシの立体だこ作り

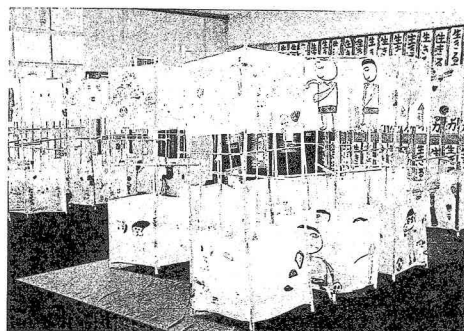


写真-6 ヨシを使った作品の展示

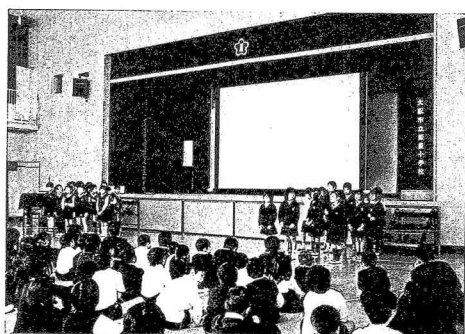


写真-7 学級紹介での学習の発表



写真-8 ヨシの立体だこ上げ大会

3. 各意識調査の内容とその結果

本研究を進めて行くにあたり、児童を対象に次の三つの意識調査を行った。一つ目は、本学級内での対人関係について意識を理解するもので「友だちとの話し合いについて」であり、本学級の児童を対象に各学期ごとに実施した(図-1)。二つ目は、全校児童対象に、「学校は楽しい」「学習は楽しい」「調べたり発表したりする学習は好きである」など学校生活全般についての各児童個人の達成度に関するものである(図-2)。三つ目は、一年間を通して行われた3年生の総合的な学習の時間での主な活動についての評価である(表-1)。

(1)「友だちとの話し合いについて」の意識調査

ふだんのクラスでの友だちとの話し合いの時間についての児童の意識を、本学級の児童27名を対象に、平成15年7月及び11月、同16年3月の計3回を、択一及び記述式の質問紙法により調査を実施した。その質問項目は、「話し合いの時間は楽しいか」の話し合い活動への関心を問うもの、「相手の考えや気持ちを理解しているか」「自分の考えや思ったことをみんなに伝えているか」の話し合い活動参加への積極さを問うもの、「自分の考えや思ったことをみんなが分かってくれているか」の自分を理解してくれる友だちへの期待を問うもの、「これから話し合いは大切なことであると思うか」「これから自分の考えや思ったことを伝えたり、相手の考えや思っていることを理解したいか」の今後の話し合い活動への意欲を問うものの計6種類であった。

調査の結果、本学級の児童は、国語科の学習「アリのすみかをさがそう」や「淀川でのバッタのジャンプ大会」、「ヨシを使った立体だこ作り」などの体験的な学習活動が中心の2学期の活動時の各項目の平均値が最も高く、反対に体験的な学習活動が少ない3学期が、最も低いという傾向が見られた。そして、各項目の選択理由には、7月には「話し合いはおもしろいから」「仲良しになったほうがいいから」「みんなの意見がまとまるから」などの直観的な視点で、11月には「協力してくれるから」「作品展やいろいろなことについて話しているから」「わからないことを教え合えるから」など体験的な活動により、3月には「ちゃんと伝えてないから」「たまに聞いてないときがあるから」「友だちのいろいろなことを聞きたいから」など児童自らの話し合い活動についての問題意識の向上により、それぞれの意見が上げられている。このようにさまざまな体験活動を通して、話し合い活動についての児童の意識の変容が見られた。

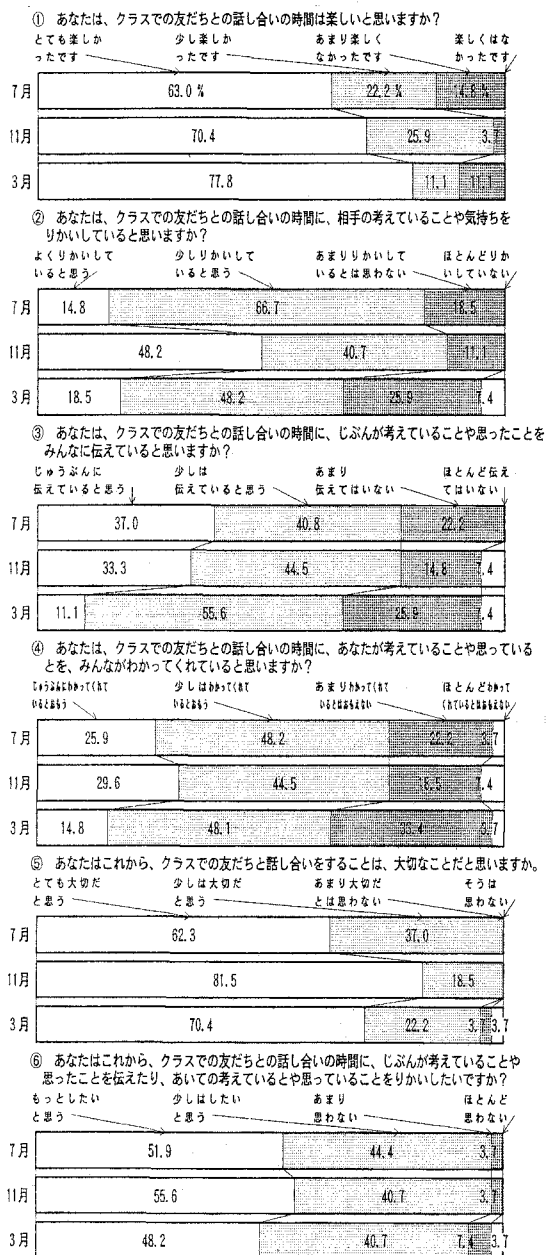


図-1 友だちとの話し合いについての調査

(2)「学校生活について」の意識調査

本意識調査は大阪市学校活性化事業の一環として平成14年度より実施されているもので、児童を初めとして保護者や教員を対象に、それぞれの本校での教育活動についての意識調査をまとめたものである。児童を対象にしたものについては、「学校生活について」で

本研究での意識調査の項目でもある「学校は楽しい」「仲のよい友だちがいる」「学習は楽しい」「調べたり発表したりする学習は、好きである」「地域に出かけたり、地域の人に教えてもらったりする学習は、好きである」の学習活動への関心・意欲と、「ひめっこなかよしはんの活動は、楽しい」「あいさつが、しっかりできる」「給食は、すききらいせずしっかり食べている」「学校のきまりをよく守っている」「知らない人に声をかけられたら、どうしたらよいか知っている」の日常生活指導に関するものなどの質問項目が上げられている。また、それぞれ「はい」「どちらとも」「いいえ」の3段階による択一式のみの質問紙法

によるものである。本年度は、それぞれの調査を、平成16年1月に意識調査を実施した。児童対象の「学校生活について」は1・2学年が計131名、3・4学年が計82名、5・6学年が計71名の合わせて、全校児童284名が参加した。ただし、調査の集計においては、3・4学年の調査数は、本学級の児童数27名を除く55名とした。

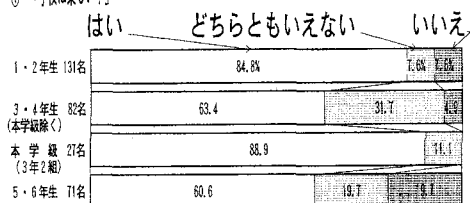
調査の結果、「仲のよいともだちがいる」については、どのグループも同様に高い平均値が見られたが、「学校は楽しい」「学習は楽しい」「地域に出かけたり、地域の人に教えてもらったりする学習は、好きである」については、本学級の児童が特に高い平均値が見られた。また、「調べたり発表したりする学習は、好きである」については、他のグループと同様に、苦手意識が見られ平均値は低い。しかしながら、本学級が、総合的な学習の時間を中心に、地域の協力を得ながら体験学習を進めることによる成果の一つが現れていると考えられる。

(3)総合的な学習の時間についての評価

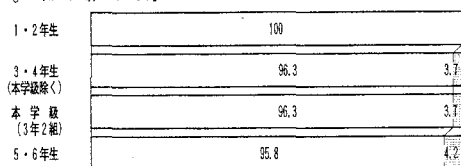
本学年では、平成15年度に年間105時間余りを総合的な学習の時間において、ヨシの栽培活動やヨシを使った工作活動などを中心に、作物などの栽培活動やその他の生き物の自然観察などの自然体験学習を進めてきた。これらの活動を見直すために、平成16年3月に本学年児童54名を対象に、ふり返りシートにより40余りの活動を、「学習したほうがとてもよい」「まあよい」「どちらでもない」の3段階評価を行った。

その結果、平均値が高かった活動として、「淀川でのバックのジャンプ大会」「社会科で昔のくらしを調べよう(昔の食べ物を作ってみよう)」「地域の公園でのゲストティーチャーによる自然観察会」「学習園でのヨシみがき」「ヨシだこ作り」「ヨシの立体だこ上げ大会」などが上げられる。これは、児童自ら触れたり、味わったり、作ったりするという体験的な活動の大切さを表していると考えられる。また、反対に、平均値が低かった活動として、「抜いた草を土にかぶしての雑草よけ」「ラミネーターを使っての野草の押し花作り」「ヨシでのペン作り」などについては、3年生という児童にとっての活動内容の理解の困難さや安全管理による活動の制限などが理由として考えられる。この結果、平成15年度の総合的な学習の時間については、全体の平均値が2.23(ヨシに関する学習については2.21)となり、児童にとっては「総合学習をして良かった」という評価が得られ、これにより、本研究の課題である、児童が友だちと協力しながら、自然に親しむことができたのではないかと考えられる。

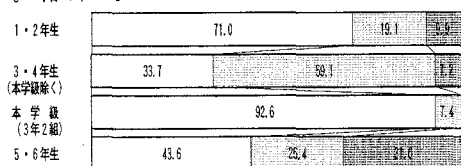
①「学校は楽しい？」



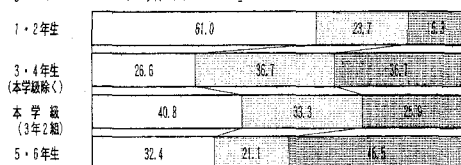
②「なかのよい友だちがいる？」



③「学習は、楽しい？」



④「調べたり発表したりする学習は、好きである？」



⑤「地域に出かけたり、地域の人に教えてもらったりする学習は、好きである？」

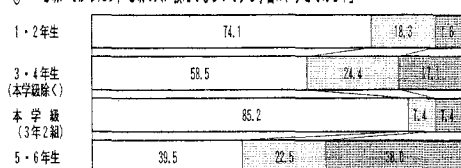


図-2 学校生活についての調査

4. まとめ

本学級の児童は、当初は、クラス替えによる友人関係の不安さに戸惑う者も見られたが、このような状況の中で、総合的な学習の時間を基にして、さまざまな自然体験学習を進めた。特に、地域の淀川の野草でありながら、ふだん馴染まれていないヨシを主な教材として活用した。その結果以下のことが明らかになった。

児童の「話し合い活動」を進めるには、児童にとって身近な共通の課題（話題）が必要である。特に、小学校中学年においては、その共通の課題として、体験的な活動は有用であると考えられる。また、この共通の課題解決は、仲間作りにつながり、やがては学習の

楽しさや学習意欲を育てることになると考えられる。

最後に、地域の野草の教材としての活用は、学校現場において未だ十分ではなく、今後活用方法の検討が必要であると考えられる次第である。そして、今回の淀川に生息するヨシの活用は、今後、教材活用に有用であることがわかった。

参考資料

- 1) 森田洋司：不登校現象の社会学，学文社，1991.
- 2) 芹沢俊介：脱学級崩壊宣言，春秋社，1997.
- 3) 山岸俊男：信頼の構造，東京大学出版，1998.
- 4) 中野重人：小学校学習指導要領の展開，明治図書1999.

RESERCH ON THE EXPERIENCE STUDY WHICH EMPLOYED THE REED OF AN AREA EFFICIENTLY AND THE EDUCATIONAL RESULT OF ITS STUDY —STUDY WHICH NOTICES THE IMPORTANCE OF RELATION THROUGH AN UNDERSTANDING OF PEOPLE AND NATURAL RELATION—

DEN AKIO

In recent years, the participated type study by the workshop, rollplaygame, etc. is being taken in as a new learning method for the purpose of training of children's communication capability at schools. Although it is new compared with the conventional study method, many centering on so-called "books-and-magazines" and "talks", such as time of Japanese, social-studies, and extracurricular activities (classmeeting), study-contents of teaching materials used to be seen. In this reserch, reports the educational result of this study and the change of the recognition about the importance of the talks activities between juvenile through the experience study which utilized the reed of the area in the time of the synthetic study.